

日常生活につながる場面を設定した加法の指導 ～紙芝居の読み聞かせを使った事例～			
学部・教科	小学部・算数科	事例コード	2415
学習グループの実態	<ul style="list-style-type: none"> 小学部5・6学年（6名） 10までの加法については、式の計算はできるが、加法の意味を理解するまでには至っておらず、生活の中で加法の考え方をういたり、「全部で」「増えた」などの言葉を用いて表現したりする姿は見られない。 		
単元(題材)名	「あわせていくつ ふえるといくつ」		
学習指導要領の内容	算数科／小学部3段階 A数と計算 イ 整数の加法及び減法に関わる数学的活動 (ア) ㉞ (イ) ㉞		
単元(題材)の目標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	加法が用いられる合併や増加等の場合について理解することができる。【Aア(ア)㉞】 <small>* 本事例集では、学習指導要領の目標及び内容に基づいた表現に編集しています。</small>	日常の事象における数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を見付け出したり、学習や生活で生かしたりすることができる。【Aア(イ)㉞】	数量の違いを理解し、算数で学んだことよきや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。【小学部3段階A目標ウ】
単元(題材)の計画	総時数 11時間 1 あわせていくつ（4時間） (1) 動画「〇〇先生からのおねがい」を見る。 (2) 「合併」の場面の読み聞かせから、ブロックを操作して和を求める。 (3) 返信の動画を撮る。 2 ふえるといくつ（3時間） (1) 動画「〇〇先生からのおねがい」を見る。 (2) 「増加」の場面の読み聞かせから、ブロックを操作して和を求める。 (3) 返信の動画を撮る。 3 たしざんクイズをつくろう（4時間） (1) 「合併」や「増加」のイラストから、クイズを作る。 (2) 具体物を操作しながら、友達の考えたクイズに答える。 (3) クイズを動画に撮る。		
指導の実際	<ul style="list-style-type: none"> 生活場面を取り上げた紙芝居の読み聞かせから「合わせる」と「あとからやってくると」などの児童自身が表現した加法を表す言葉を取り上げて、「あわせて法（合併）」と「あとから法（増加）」に分類したことで、場面に合った言葉を用いて加法の場面を表現したり、ブロックを操作して和を求めたりする姿が見られるようになった。 初めは「がっちゃん」等の自分なりの言葉で加法の場面を表現していたが、自分の考えを持った後に友達の考えを聞く場面を設定したことで、「合わせる」と等の算数用語に変化した。 身近な教師からのお願いを解決するという形で課題を提示したことで、加法を使って課題を解決しようとする姿を引き出すことができた。児童自身が授業や日常生活の中の数の必要性に気付いたり、数量関係への興味・関心を高めたりする場面の設定が今後の課題である。 		

